

政策評価（令和 8 年度）

政策評価調査

戦略 3 観光・交流戦略					
幹事部局名	観光文化スポーツ部	評価者	政策企画部長	評価確定日	令和 8 年 7 月 31 日

1 戦略のねらい

価値観の変化と地方への関心の高まりを好機と捉え、食や文化、スポーツをはじめとする多様な分野と観光との連携・融合により、交流人口の更なる拡大を図ります。

2 施策評価の結果

施 策	施策評価の結果			
	2022 (R 4)	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)
目指す姿 1 「何度でも訪れたいくなるあきた」の創出	b	b	c	d
目指す姿 2 「美酒・美食のあきた」の創造	a	a	a	a
目指す姿 3 文化芸術の力による魅力ある地域の創生	a	a	a	b
目指す姿 4 活気あふれる「スポーツ立県あきた」の実現	c	e	e	e
目指す姿 5 国内外との交流と住民の暮らしを支える交通ネットワークの構築	c	d	d	e

※施策評価の結果:a、b、c、d、eの5段階で判定した結果

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
D	施策評価の結果を基にした定量的評価が「D相当（平均点1.60）」であることから、総合評価は「D」とする。

※定量的評価:施策評価結果を点数化して平均点を算出し、A相当、B相当、C相当、D相当、E相当の5段階に判定する。

・施策評価結果の配点 a:4点、b:3点、c:2点、d:1点、e:0点

・判定基準(平均点) A相当:4点、B相当:3点以上4点未満、C相当:2点以上3点未満、D相当:1点以上2点未満、E相当:1点未満

※総合評価:定量的評価を基本とし、定性的評価を考慮する必要がある場合には、総合的な観点からA、B、C、D、Eの5段階に判定する。

4 主な課題と今後の対応方針

目指す姿	課題（戦略の目標達成に向けた課題など）	今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）
1	多様化する旅行ニーズに対応したストレスフリーな受入態勢の整備が不十分である。 など	バリアフリー化を含む幅広い取組を対象とする宿泊施設の高付加価値化等を目的とした補助事業等により、多様なニーズに応じた受入態勢整備を支援する。また、観光施設のバリアフリー調査を実施するとともに、高齢者モニターツアーをさらに充実（一泊コース・日帰コース）させ、県内外の介護サービス事業者等への周知を図る。あわせて、観光地・宿泊施設等に係る情報発信及び電話相談等により安全・安心に旅ができるよう支援する。 など
2	指標として設定している加工食品・日本酒の輸出金額については、海外の展示会への出展支援などにより商談機会を提供し、輸出金額が10億円を上回ることができたものの、最終的な目標を達成することはできなかった。 など	加工食品の輸出を牽引する日本酒を核に、アジアをターゲット市場と定め、現地の展示会出展やバイヤー招へい等によるマッチング機会を創出することで、更なる輸出促進を支援していく。 など
3	人口減少や高齢化が進行する中、文化芸術活動を維持・活発化させる上で、文化芸術を担っていく人材の不足が懸念される。また、子どもたちが質の高い文化芸術に直接触れる機会が十分に確保されていない。 など	アートやデザイン分野における若手アーティストの活動支援や映像制作等に係る担い手の育成を支援するほか、音楽や美術の分野での中高生等を対象としたアウトリーチ事業により質の高い文化芸術に触れる機会を創出する。 など
4	指標として設定している成人の週1回以上のスポーツ実施率について、働く世代や子育て世代の女性では「仕事や家事が忙しい」、「子どもに手がかる」との理由から低調に推移しており、4年連続で目標を下回った。 など	これまで育成した認定指導員を活用するとともに、そのネットワーク基盤を生かし、スポーツ実施率が低い働く世代や子育て世代の女性を対象に、職場における運動教室の開催や、デジタル技術を活用した家庭で手軽に実践できる運動プログラムのSNS配信などにより、いつでも、どこでも、気軽に運動ができる環境整備に取り組んでいく。 など
5	フェリー航路の旅客については、回復傾向にあるもののコロナ禍前の水準までは回復しておらず、また、貨物については、他航路との競争が激化し秋田航路の利用数が伸びていない。 など	トラック業界における2024年問題を受けてモーダルシフトに取り組む事業者を対象に、助成制度を実施し、プロモーションやトップセールスをおして新規利用事業者の獲得に努めるとともに、需要的確に捉え利用増加につなげていく。また、旅行事業者への助成制度のほか、メディアや出前講座等の場でフェリー利用の魅力をPRし、貨物・旅客利用の推進を図る。 など

※課題と今後の対応方針の各施策の詳細については、施策評価調査を参照

5 政策評価委員会の意見

自己評価の「D」をもって妥当とする。